

企業ニュース 日東紡

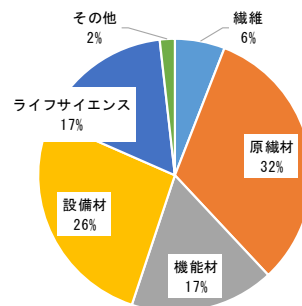
(東証1部:3110) <https://www.nittobo.co.jp>

作成者:兵藤三郎

日本で初めてグラスファイバーの工業化に成功

1918年、福島精練製糸設立。1923年、片倉製糸紡績岩代紡績所を買収し、日東紡績に商号変更。1938年、日本で初めてグラスファイバーの工業化に成功した。グラスファイバーは現在の主力事業（セグメントとしては原織材、機能材、設備材で展開）で、高強度、耐熱性、電気絶縁性などの特性を持つ。FRP（繊維強化プラスチック）として自動車の軽量化向け素材や、スマホ筐体用複合材料、高機能電子基板、樹脂コーティング膜材、断熱材など様々な用途に使われている。今後は次世代通信規格「5G」の進展に伴い、端末や基地局用電子部品向けの需要拡大が期待できよう。その他、1960年に「暮しの手帖社」との共同研究により誕生した「日東紡の新しいふきん」は現在も使われている超ロングセラー商品。近年では体外診断用医薬品などを手掛けるメディカル事業にも注力している。

◇19.3期売上高構成比



(出所) 日東紡資料よりCAMI作成

5G投資拡大に伴う業績成長に期待

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が206億円、前年同期比1%増、営業利益が17億円、同20%減。繊維や強化プラスチック用途の複合材（原織材）などの苦戦はあったが、スペシャルガラス（低熱膨張のTガラス、低誘電率・低誘電正接のNEガラスなど）の旺盛な需要により小幅ながら増収。当四半期にはスペシャルガラス新規設備の稼働を開始し、今後の需要増加に対応していく方針。一方、利益面では基盤強化施策に伴う費用の増加により営業減益となった。19.3期・第4四半期（1-3月）比較では増収増益となった。上期（4-9月）の営業利益計画30億円に対する第1四半期の進捗率は57%と好調に推移している模様。

20.3期連結業績の会社計画は、売上高が900億円、前期比9%増、営業利益が85億円、同4%増。5G用途の拡大によりスペシャルガラスのさらなる需要増が見込め、能力増強施策などが寄与しよう。当社はメディカル事業でも能力増強対応を行っている。2020年以降の業績貢献となるだろうが、中期的な成長を下支えする要因となるだろう。

【株価動向・投資判断】

スマホの販売状況などを勘案すれば今期計画のハードルは高く、株価はP E Rで20倍の水準と割安感はないが、中期的な成長が期待できる銘柄として注目したい。

<3110 日東紡 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	84,526 (1)	10,837 (▲ 3)	11,071 (▲ 3)	10,253 (37)	264.0	26.00
19.3	82,292 (▲ 3)	8,198 (▲ 24)	8,934 (▲ 19)	7,984 (▲ 22)	205.8	40.00
20.3 予	90,000 (9)	8,500 (4)	8,800 (▲ 2)	6,200 (▲ 22)	159.8	40.00

(注) 17年10月1日付で普通株式5株につき1株に株式併合。18.3期の1株配当は併合前の第2四半期末3.5円と併合後の期末22.5円の単純合計。



[主要株価指標] (売買単位:100株)

株価 (2019/10/11)	3,225 円
年初来高値 (高値日)	3,405 円 (19/10/2)
同 安値 (安値日)	1,708 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	20.2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,283.0 円
P B R	1.41 倍
予想配当利回り	1.24 %
(1株当たり配当金年40.00円)	
R O E (19.3)	9.1 %
発行済み株式数	3,994 万株